



Open Campus 2010

◎日獣祭開催中。日獣祭のイベントもご見学・ご参加ください。

タイムテーブル (10/30・31)		10:30	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
受付	C棟5F エレベーターホール 全学科			・資料配布	・シラバス(講義概要)展示	・入試過去問題(実物)展示		
相談会	C棟5F 会議室 全学科				・教員との相談(学科の相談はこちらでどうぞ!)	10:30~16:00 随時		
	C棟5F 応接室 全学科				・何でも相談(入試の相談はこちらでどうぞ!)	10:30~16:00 随時		
学科体験説明	C-502 獣医学科 獣医保健看護学科		11:00~ 獣医学科 学科説明	11:30~ 獣医学科 入試説明	12:00~ 獣医保健看護学科 学科説明	12:30~ 獣医保健看護学科 入試説明	13:00~ 学長からの メッセージ	13:30~14:15 獣医学科 体験講義
	C-501 動物科学科 食品科学科		11:15~12:00 食品科学科 体験講義		12:15~13:00 動物科学科 体験講義	13:00~ 食品科学科 学科説明	13:30~ 食品科学科 入試説明	14:00~ 動物科学科 学科説明
研究室紹介	C-503 動物科学科				10:30~16:00 随時	パネルの展示で研究室をご紹介します。		
	C-503 食品科学科				10:30~16:00 随時	パネルの展示で研究室をご紹介します。		

■ 獣医学科 体験講義

動物に咬まれたらどうする?
～感染症の怖さと対策～(10/30)

動物に咬まれたことはありますか? 動物に咬まれた時、獣医が最も心配するのは「感染症」です。なぜなら、動物から感染する病原体がたくさんあるからです。そして、動物の感染症から人を守るのは獣医に課せられた使命です。今年の夏、100人以上がサルに咬まれるという事件が起きました。サルは日本各地にいます。今回は大丈夫でも、「明日は我が身」です。では、その場面にいくついたらどうすればいいのか? 今回は、サルから感染する病気を例にして、皆さんと考えてみたいと思います。

助教

高野 貴士
獣医公衆衛生学



■ 獣医保健看護学科 体験講義

動物看護師という職業は?
～人と動物の共生社会へ飛躍する新しい存在～(10/30)

国際的な経済危機の中、社会全体が不安に包まれた先行き不透明な時代に、人々の生活を明るくしてくれる動物との共生生活、また、国民へ安心・安全な食生活や保健衛生の面でも動物看護職の役割は大きいと考えています。動物看護職のそれぞれの力を強化・結集して、安心・安全な獣医療・動物福祉を実現できる取り組みを行い、社会の期待に応えなければならぬと考えています。このような時代のうねりの中にある動物看護職の現状について、動物看護師自身の言葉で語らせていただきたいと思います。

講師

松原 孝子
獣医保健看護学
臨床部門



犬猫に対するがん治療
(放射線治療)について(10/31)

ヒトと同様に獣医療の日進月歩により犬および猫の高齢化が進み、それに伴ってがんが増加している。現在、日本獣医生命科学大学付属動物医療センターでは手術や抗がん剤とともに放射線治療をがん治療の三本柱として日々がんと闘っている。今回の講義では放射線治療とはどんな治療なのか? そしてどんながん放射線治療を行っているのか? さらにどんな効果が得られているのか? などについて簡単に紹介します。

教授

藤田 道郎
獣医放射線学



伴侶動物の栄養学とペットフード(10/31)

犬や猫は人間とは食性が異なり、そのため栄養代謝のしくみにも人間と違った部分がいくつかあります。犬や猫の唾液にアミラーゼはほとんど含まれませんが、取り入れなければならないビタミンや脂肪酸の種類にも違いがあります。特に肉食動物である猫は糖質の代謝がとても苦手で、このことは猫が糖尿病になりやすいことと深く関わっています。この講義では、犬や猫が必要とする栄養素や、さまざまなペットフードについて概説します。

准教授

石岡 克己
獣医保健看護学
臨床部門



■ 動物科学科 体験講義

鳥の栄養(10/30)

鳥類は哺乳類とは全く別の進化を果たした動物で、栄養にもさまざまな特徴を持っています。しかし、医学の基礎研究につながりやすい哺乳類と異なりよくわかっていない点も多くあります。また、動物は餌の種類、消化吸収システム、さらには吸収後の栄養素の利用のしかたに違いがありますが、鳥類は代謝的食性が明らかにされていません。そこで、ニワトリにおける新しい栄養の話、さらにさまざまな鳥類の特徴についての最新の話をしてします。

准教授

太田 能之
動物生産化学



生物がもつ周期性(10/31)

生物は、一定の周期的な活動をしています。たとえば、多くの鳥類は昼間に活動し、ネズミやゴキブリなどは夜間に活動しています。このような周期的な活動は、生物が備えている時刻や様々な長さの時間を測る仕組み(生物時計)により起きています。我々の体にも生物時計が備わっており、睡眠の覚醒リズムやホルモン分泌などは周期性を示します。講演では、生物がもつ様々な周期性と生物時計について紹介します。

助教

中尾 暢宏
動物生理制御学



■ 食品科学科 体験講義

アミノ酸で毎日健康
—アミノ酸の意外な働き—

私達の生活の中でよく目にする「アミノ酸」。調味料や飲料の他、化粧品やシャンプーなど、幅広く製品中に含まれています。実は、毎日食べている食べ物の中にもたくさん含まれています。それでは、「アミノ酸」ってどんな形をしていて、体ではどのような働きをしているのでしょうか? 「アミノ酸」は、タンパク質を構成している小さな物質ですが、体の中では、体タンパク質の構成成分になるだけでなく、神経伝達物質、免疫力の向上、疲労の軽減等、私たちの健康維持には欠かせない大切な働きを持つことが知られています。この体験講義では、「アミノ酸」が私たちの体の中で、健康維持のためにどのような働きをしているのかについて少し詳しく学ぶと共に、「アミノ酸の意外な働き(塩味増強作用)」を体験していただきます。「アミノ酸と健康」や「アミノ酸の働き」にご興味のある方は、是非、ご参加下さい。

食品機能化学
教授

西村 敏英



助教

江草 愛

